

広報紙の新たな方向性

平成の大合併が一段落しましたが、こうして新たに生まれたまちの広報紙は、一体どうあるべきでしょうか。

合併後の広報ふくちが、編集上の最重要テーマにしてきたのは“ふるさと意識の醸成”でした。今までの特集を振り返ってみると、そのすべてで構成(展開)が前向きになっています。地理的・歴史的に共有してきたことを主題にした特集が、住民のみなさんに残る“旧町の壁(意識)”を、少しずつですが確実に取り除いていったのではないのでしょうか。

今後は視線を“これから”に定め、みなさんが「福智に住んでいてよかった」と感じるような、新たな“ふるさと福智”を創造していくことが大切です。そのためには、まちとそこに住むみなさんが、広報紙を介して共に福智の“あしたの形”をイメージしていかなければなりません。

「紙面は読者が育てる」と言われるように、みなさんの温かい支援と厳しい目が、広報ふくちをがっちり支えています。また、広報ふくちが小中学生の副読本として活用できるものになっているように、広報紙のレベルがまちの文化土壤につながることもあるでしょう。福智町が全国に誇る文化的特産品であり、広報紙の理想像に一番近いのが「広報ふくち」。あえてわたしは、こう断言しておきます。



編集コンサルタント
 元福智新聞編集局長(赤池出身)
藤井 孝三さん



3世代で広報紙を楽しむ赤江さんご家族(伊方)。知った顔を見つけ、会話がはずみます。

さんのがんばっている姿を紹介することで、もっとふるさとに誇りを持ち、もっと福智町を好きになってもらいたいと考えています。地域に愛着を持つことが、このまちに暮らし続けたい、という意識の芽生えにつながり、それが、自分たちのまちをもっと良くしよう、という前向きな行動につながるものだと思っています。からです。

目指したい協働のまち

実際このまちに暮らすみなさんとの協働なくして、今後のまちづくりは成り立たないといわれています。この「協働のまちづくり」という言葉は、今やあ

人とまちをつなぐために

住民と行政との間を身近な情報でつなぐ町の広報紙は、よく「住民と行政をつなぐパイプ役」に例えられます。広報紙をとおして、まちとそこに住む人が共通の意識を持ち、互いの信頼関係を築いていくためには、読者であるみなさんの声が欠かれません。広報ふくちは、これまでも、そしてこれからも町の姿を綴っていきます。まちのみんなで作る広報紙に、たくさんのご意見、ご感想をお待ちしています。



「活動を紙面で取り上げてもらえると励みになります」と声をそろえる青い鳥のみなさん。

▼音訳広報を希望する人は、社会福祉協議会地域福祉課(TEL:0976)までお問い合わせください。ご利用は無料です。

朗読ボランティア青い鳥「書かれていることを正確に伝えるため、まずは自分が内容を理解することから始めます。広報ふくちは、毎号、担当のわたしの郷土愛が伝わってきます。町内にお住まいで目が見えづらいかたにも、ぜひ、広報ふくちを楽しんでもらいたいですね」と朗読ボランティア「青い鳥」の桑野京子会長(市場)。目が不自由な人のために、広報紙上の写真なども含めて声で見事に表現し、CDに収録。多くのかたから喜ばれています。



FUKUCHI Title Listup ▶ 知っていただきたいこと、一緒に考えていただきたいことなど、タイミングをはかって「特集」しています。



- 「自然」を特集したもの
 H18.4 「嗚呼、福智山」
 H19.3 「桜」
 H21.4 「迎接の藤」など
- 「文化」を特集したもの
 H18.11 「人と祭り」と
 H20.1 「文化財総覧」
 H20.12 「上野JAPAN」など
- 「歴史」を特集したもの
 H18.9 「此の地に由来あり」
 H19.10 「幕末動乱」
 H20.9 「祈り」など
- 「生活」に関する特集
 H18.7 「生きがい」
 H20.3 「蛇口ノムコウ」
 H21.1 「ふくちの保育」など
- 「意識」に関する特集
 H20.7 「防災」
 H20.8 「地球はいま。」
 H21.6 「男女共同参画」など

**大好きなまちの今を伝えたい
 もっと身近な情報紙へ**

町を愛するまなざしや気持ちが、行動へつながり、やがてまちづくりへと発展していきます。あなたが暮らす町だから、もっとこの町を好きになってほしい。広報ふくちの願いです。

紙面を持つ「広報力」
 パソコンや携帯電話でいつでも瞬時に世界中の情報が手に入る現代。福智町でもホームページを運用し、イベントのお知らせや町の観光情報などを発信しています。しかし、インターネットはそれらを積極的に知ろうとする人にしか見ることができません。その点、広報紙は直接ご家庭に配られるので、町政にあまり関心がない人にも、何気なく手にとって読んでもらえる可能性がります。町が進んでいる施策や町の姿勢を、老若男女を問わず幅広くお伝えできるのは、やはり広報紙しかありません。

しかし「□□条例ができました」「○○をしましょう」など、ただ小難しい言葉を並べて一方的に施策を知らせるだけで、広報紙の使命を果たせていると言えるでしょうか。それではただ文字が目にとまるだけで、心には響かず、当然「じゃあ何かしよう」という気にならないうでしよう。そのような広報紙は、先に述べたように、金額以上の価値があるとは言えません。

広報ふくちは、手にとったれたみなさんが、何か新しい考え方や新しい人と出会うきっかけになればと願って編集しています。また、まちの魅力やみな

→ 表面・裏面の両方に記入後、50円切手を貼ってお近くのポストから郵送するか、役場や公民館に設置している「アンケート回収箱」へご投函ください。

「回収箱」設置場所
 役場本庁・赤池支所・方城支所・中央公民館・金田分館・方城分館

※「回収箱」に入れる場合、切手は不要です。
 ※「回収箱」は4月末まで設置します。郵送の場合、回答期限はありません。

Q 「広報ふくち」を読んでいますか？ (□に✓をつけてください)

- 毎回読んでいる
- たまに読んでいる
- 読んでいない

Q よく読むコーナーはどれですか？ (複数回答可)

- すべて
- 特集
- インフォメーション&ニュース
- 情報ひろば
- 保健師だより&保健の掲示板
- 四季の歌
- ズームインふくち
- ふくたま
- 町長日誌
- その他()

Q 今後もっと詳しく知りたいことや、ご意見、ご要望など自由にご記入ください。
